

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 工業・商業系列等を持つ総合学科として、多様な進路実現を可能にし、生徒が夢を実現できる学校、地域・保護者から厚く信頼される学校をめざす。
1. 「探そう 東総 明日の自分！」をキーワードとしてキャリア教育・職業教育を力強く推進する学校。
 2. 「基礎的・基本的な知識・技能の習得」を目標に授業で鍛える学校。
 3. 「社会で愛され必要とされる人間」になるため、学校・家庭・地域等が一体となり、教育活動を展開する学校。
 4. 「目標達成に向け意欲的に取り組む学校運営体制」を確立し、府民の期待に応えられる学校。

2 中期的目標

- 1 確かな学力の育成
 - (1) 総合学科の特長を生かした実業教育・キャリア教育を推進し、3年間の学びで総合的な学力を育てる。
 - ア、3年間の体系的なキャリア教育プログラムを発展させる。
 - イ、外部人材・外部組織の積極的な活用やインターンシップの拡充により、実業教育の充実に努め、資格取得を促進する。
 - ウ、四年制大学の公募制入試・一般入試を視野に入れ、進学指導を充実させる。
 - *進路実現については、就職1次合格率（平成27年度80%）を毎年3%引き上げ、平成30年には89%にする。大学進学者数（平成27年度30名）を毎年10%以上引き上げ、平成30年度には50人以上をめざす。
 - (2) 学ぶ姿勢を確立し、基礎・基本の習得を中心に「確かな学力」の育成に努めるとともに、コミュニケーション能力の育成をめざす。
 - (3) 「魅力ある授業づくり」をめざして、授業改善に組織的に取り組む。
 - *学校教育自己診断「授業はわかりやすく楽しい」の項目生徒評価（平成27年度52.1%）を毎年3%ずつ引き上げ、平成30年度には、平成30年度には60%以上にする。
 - *資格取得の延べ数（平成27年度272件）を、毎年5%以上増やし、平成30年度には、320件に増やす。
- 2 社会とつながる力（社会人基礎力）の育成
 - (1) あいさつ、服装、遅刻、清掃などの指導に全教員で取り組み、基本的な生活習慣を確立させ、規範意識を育む。
 - (2) 体育祭・文化祭等の行事を通して、クラス活動や生徒会活動の活性化をはかる。
 - (3) 部活動の種類と質を充実させるとともに、ボランティア活動の機会を増やす等、生徒力のより一層の活性化をはかる。
 - *中退者数（平成27年度15人）を毎年5%ずつ減少させ、平成30年度には、中退率を1.0%以下にする。（平成27年度中退率2.20%）
 - *クラブ加入率（平成27年度42%）を毎年3%ずつ増やし、平成30年度には50%にする。
- 3 地域連携と広報活動の充実
 - (1) 保護者面談や適宜の家庭訪問によって家庭との日常的な信頼関係を築くとともに、メルマガによって学校情報の確実な伝達をめざす。
 - (2) 中高連絡会や中学校訪問により生徒情報を把握して指導に生かすとともに、平野区や子供相談センター等と連携し生徒の就学保障につとめる。
 - (3) ホームページの更新、オープンスクール等の充実、近隣の小中学校への出前授業の実施等により、学校の情報や魅力の発信に努める。
 - (4) 地域公開講座・PTAバザー等を継続して実施し、地域行事等への教職員と生徒の参加を積極的に支援する。
 - *学校説明会・オープンスクールへの参加者（平成27年度480人）を毎年5%ずつ増やし、平成30年度には、平成27年度比15%増やす。
- 4 生徒を支える校内体制の充実
 - (1) 首席連絡会や運営委員会、職員会議等の各種会議の連携を強化し、分掌・学年が情報を共有して迅速に課題解決にあたることのできる体制を整える。
 - (2) SCや支援教育コーディネーターを活用し、教育相談委員会・生徒支援委員会との連絡を密にし、各学年との連携体制を機能させる。
 - *学校教育自己診断「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」の項目教職員評価（平成27年度34.8%）を毎年5%ずつ増やし、平成30年度には50%にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成28年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業はわかりやすく楽しい」（生徒対象）の肯定的評価は56.9%（昨年52.1%）、「生徒の学習意欲に応じて、学習指導の方法や内容について工夫している。」（教職員対象）が87.9%（昨年69.6%）で成果をあげることができた。 ・一方で、「授業でわからないことについて先生に質問しやすい。」（生徒対象）の肯定的評価が59.6%（昨年66.7%）にダウンするとともに、「評価の在り方について話し合う機会がある。」（教職員対象）63.8%（昨年47.8%）、「学校内で他の教員の授業を見学する機会がある。」（教職員対象）59.0%（昨年73.9%）の肯定的評価が低く、授業の在り方や評価についての教員の意識改革が必要である。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる。」（教職員対象）75.9%（昨年56.5%）、「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い。」（生徒対象）76.3%（昨年59.6%）、「この学校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている。」（教職員対象）70.2%（昨年30.4%）と、生徒と教員の信頼関係が築かれている。 	<p>【平成28年度学校教育計画について】</p> <p>○進路の未決定率の減少</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学進学率も徐々に上がり、未定の現状でも何もしたくない生徒が減少している。先生方のご尽力の成果であり、学校も以前に比べて落ち着いてきた。 <p>○教員の授業力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員は授業がすべて、教材研究をしっかりとこない授業に取り組んで欲しい。 ・一方的に教えるのではなく、状況を把握して今以上に丁寧な指導を行って欲しい。 ・国の力を向上させるには、教育力を向上させることが一番である。教育の第一の意味は、本来「引き出す」である。生徒の良い部分や可能性を引き出して欲しい。又、若い先生方は先輩教員をしっかり見習って欲しい。 <p>○生徒指導の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活規律において、時間を守ることが、社会では大切である。なぜ時間を守る必要があるかを教育して欲しい。 <p>○地域連携と公開授業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生にもなじみやすく、書き込みが自由にできる（ブログやライン）HPを作成して欲しい。 ・近年の学校の変化が激しいので学校からの積極的な情報発信をして欲しい。 ・地域の大人や卒業生、中学生が学校へ来校する機会を増やして欲しい。

<p>•一方で、「先生は、協力して生徒指導に当たっている。」(生徒対象)55.4% (昨年65.7%)、「学校生活についての先生の指導には納得できる。」(生徒対象)56.2%(昨年56.9%)の肯定的評価が低く、今後、厳しさを持ちながら教員全体で協力して生徒指導に当たる体制づくりに取り組みたい。</p> <p>【学校運営】</p> <p>•保護者の全設問について、肯定的評価が75.0%(昨年73.7%)で昨年に続き上昇している。</p> <p>•「学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている。」(教職員対象・保護者対象)の肯定的評価が88.3%・70.3%(昨年72.7%・60.3%)と非常に高く、10%以上上昇している。</p> <p>•「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。」(教職員対象)の肯定的評価は、昨年比15.2%増であるが50.0%にとどまり他の項目の肯定感に比べて低い。今後、さまざまな場面で協同し、チーム学校として取り組みたい。</p>	<p>【授業改善の取組みについて】</p> <p>•今回見せてもらったような授業形態(アクティブ・ラーニング)は、最近よく言われている。基本的に、そのレベルに達していない生徒が多いと成立させにくい手法である。</p> <p>•生徒たちの学習意欲が平均的に高まってきているように感じた。</p> <p>•講義型ではなく、グループで話し合いながら、主体的に考える授業を取り入れることは大切。</p> <p>•学校の中では、授業が中心。授業で勝負できるように学び続けてほしい。</p> <p>【学校教育自己診断について】</p> <p>•初任者を育成する体制を作ってもらえたらよいと思う。</p> <p>•進路指導に関して、いつ頃どのようなガイダンスが計画されているか周知できるようにすれば肯定感が高まるのではないかと。</p> <p>•保護者がPTA活動に参加しやすくするため、ホームページを活用し、PTA活動について情報提供してほしい。</p> <p>•全般的に、アンケートの提出率も上がっており、生徒もよくなってきていると感じる。それが教員を見る目が厳しくなっていることにつながっている。全体的には肯定感が高いと感じるが、それに甘んじることなく、生徒に対応してほしい。</p> <p>•保護者の「子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている。」や生徒指導面での指導に対する肯定感が高く、生徒たちも学校へ行くのが楽しいと感じており、規律を守って楽しく活動していることが読み取れるので、安全・安心な学校づくりが進められていると感じることができ、中学校側としてもうれしい。</p> <p>【平成28年度学校評価(案)について】</p> <p>•本校は、工業系への就職に比べ、工業系以外への就職はやや弱いとのことだが、1年次からキャリア教育をもう少し力を入れたいのではないかと。</p> <p>•学校評価については、全体的にはかなりいい結果になっていると思う。中期的目標は4つの項目に分かれているが、学校の1番の基本は「学力の育成」なので、それを大切に考えて進めていただきたい。</p>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) キャリア教育の推進 ア、体系的キャリア教育プログラムの充実 イ、実業教育の充実と資格取得の促進 ウ、進学指導の充実	(1) ア・キャリア教育プログラムの取り組みを一層充実させ、生徒の進路意識の早期の向上に努める。 •学校マネジメント予算を活用し、効果的なキャリア教育を推進する。 イ・資格取得のための講習をさらに充実させ、質の高い資格に挑戦させる。 •資格取得の「見える化」を図る。 ウ・「英数系列」の生徒に対する講習を実施し、進学指導を拡充させる。 •進学意識の向上と受験学力の育成に1年次から取り組む体制を築く。	(1) ア・学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある」の項目生徒肯定率80%以上。 (平成27年度77.9%) •就職一次試験の内定率82%以上をめざす。(平成27年度80%) イ・資格取得延べ数300件。 (平成27年度272件) ウ・中堅大学合格者を含め、4年制大学合格者36名以上。 (平成27年度32名)	(1) ア・「フィールドコア平野」と生徒との交流会や外部講師による就職セミナーを実施したが、生徒の肯定感は69.2%に減少した。(Δ) •就職1次内定率も昨年度と同じ80%にとどまった。(Δ) イ・資格取得のための補習や土曜講習を行い質の高い資格に挑戦させた。 現在資格取得247件。(Δ) ウ・「英数系列」の放課後講習を年間通して実施した。4年制大学合格者35名。(○)
	(2) 学ぶ姿勢の確立と「確かな学力」の育成 ア、ICTを活用した授業の推進	(2) ア・教育産業の学び直し教材等を活用し、基礎学力の定着に取り組む。参加型の授業を各分野で増やす。 •ICTを活用した授業ができる環境を整備する。	(2) ア・学校教育自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い」の項目生徒肯定率68%以上。 (平成27年度63.1%)	(2) ア・能動的な学びの授業を増やし各教科で実践した。肯定感は3.2%ふえ、66.3%に上昇したが目標値には達成しなかった。生徒の実態把握がさらに必要。(Δ) •ICTを活用した授業をしている教員は81.7%と多い。(○)
	(3) 「魅力ある授業づくり」をめざした授業改善 ア、授業アンケートの有効活用 イ、教育内容の充実	(3) ア・年2回の授業アンケートを実施し、振り返りシートをもとに授業改善に取り組む。 •授業改善チームを中心に、教員同士での授業観察を実施し授業改善に取り組む。 イ・「数学1」の習熟度別クラス編成を、他の教科、科目で実践する。	(3) ア、イ •学校教育自己診断「授業はわかりやすく楽しい」の項目生徒肯定率57%以上。 (平成27年度52.1%)	(3) ア、イ・振り返りシートをもとに授業改善に取り組んだ。生徒の肯定感は56.9%に上昇した。(○)

府立東住吉総合高等学校

<p>2 社会とつながる力（社会人基礎力）の育成</p>	<p>(1) 基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成 ア、生徒指導部を中核とした指導体制の確立</p> <p>(2) 生徒会活動及びクラス活動の活性化 ア、体育祭、文化祭実行委員会の活性化</p> <p>(3) 部活動の充実 ア、部活動の活性化に向けた取り組み推進</p>	<p>(1) ア・遅刻指導については、生徒指導部を中心に統一した指導体制を築く。頭髪指導は年間を通して計画的に実施する。 ・清掃指導を充実させ、生徒の清掃当番を確立し校内美化に努める。</p> <p>(2) ア・体育祭の種目を見直し体育競技としての質の向上を図る。文化祭については生徒の主体性を喚起しつつ、将来的な外部公開に向けた条件整備をする。 ・人権ホームルームの充実をはかる。 ・生徒の各種委員会の活性化を図る。</p> <p>(3) ア・体験入部期間を延長する。 ・部活動の活動や発表の「見える化」を行う。</p>	<p>(1) ア・年間遅刻総数平成 27 年度比 10% 減（平成 27 年度 3862 人） ・学校教育自己診断「生活規律や学習規律などの基本的な生活習慣について」の項目生徒肯定率 70%（平成 27 年度 67%）</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断「生徒会活動は活発である」の生徒肯定率 60%。（平成 27 年度 55.6%） ・文化祭、体育祭に関する生徒肯定率 75%。（平成 27 年度 69.1%）</p> <p>(3) ア・部活動参加率 47%（平成 27 年度 42%）</p>	<p>(1) ア・生徒指導部を中核として指導の見える化を徹底した。年間遅刻総数 3441 人。昨年の 3862 人から 11% 減少した。（○） ・基本的な生活習慣を身に付けさせるため、個々の生徒に丁寧な指導を行った為、肯定率は 6.7% 増え 73.7% と目標を上回った。（◎）</p> <p>(2) ア・朝のあいさつ運動や地域のボランティア活動に取り組み、生徒会活動の生徒肯定率は 63/1% に増え目標を上回った。（◎） ・今年度、文化祭で有志の参加を規制したことで、文化祭・体育祭に関しては 64.2% と減少した。（△）</p> <p>(3) ・部活動生徒が学校行事のサポーターとして参加し活動の見える化を図った。参加率は 47.3% に増加し、目標を達成した。（○）</p>
<p>3 地域連携と広報活動の充実</p>	<p>(1) 家庭との日常的な信頼関係の構築</p> <p>(2) 中高連携と関係機関との連携強化</p> <p>(3) 学校の情報や魅力の発信</p> <p>(4) 地域連携の充実</p>	<p>(1) ア・学校情報の保護者への伝達の豊富化に努め、保護者の理解と協力を仰ぐ。 ・PTA 活動を組織的かつ計画的に実施する。</p> <p>(2) ア・出前授業やクラブ交流等を通して、地元の中学校との連携を促進する。</p> <p>(3) ア・ホームページを刷新し、学校情報の一層の発信に努める。</p> <p>(4) ア・地域公開講座等の対象を平野区全体に広げる。 ・平野区と連携した事業「ひらの青春生活応援事業」に取り組む。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」の項目保護者肯定率 63%（平成 27 年度 58.4%）</p> <p>(2) ア・出前授業やクラブ交流の回数を昨年度比 20% 増。（平成 27 年度 12 回）</p> <p>(3) ア・学校説明会等参加者昨年度比 10% 増。（平成 27 年度参加者述べ 480 人）</p> <p>(4) ア・学校教育自己診断「地域連携」の項目教員肯定率 75%（平成 27 年度 69.6%）</p>	<p>(1) ア・HP やメルマガを活用して学校情報を発信したが、保護者の肯定率は 57.3% とわずかに減少した。保護者参加の行事の見直しが必要。（△）</p> <p>(2) ア・近隣の民間出身の中学校長と連携を進め、クラブ交流や出前授業を実施した。で 19 回の交流を実施、昨年度より 50% 以上増加。（◎）</p> <p>(3) ア・広報プロジェクトチームによる広報活動の見直しで、昨年の 480 名から 23.8% 増加し、594 名。（◎）</p> <p>(4) ア・平野区と連携した事業や喜連西地区協議会との連携行事に取組み地域連携の、肯定率は 8.8% 上昇し、78.3% に増加し目標を上回った。（◎）</p>
<p>4 生徒を支える校内体制の充実</p>	<p>(1) 全校的な指導体制の構築 ア、情報の共有化、見える化</p> <p>(2) 個々の生徒への支援体制の強化 ア、教育相談体制の充実 イ、学級経営力の強化</p>	<p>(1) ア・年次主任会、分掌会議を定例化し、分掌業務において情報を共有し年次間の足並みをそろえた指導をおこなう。</p> <p>(2) ア・高校生活支援カードを活用し、SC と連携して生徒支援体制を実りあるものにする。 ・教育相談委員会の定例化と SC の会議への参加 ・生徒が相談しやすい窓口をつくる。</p> <p>イ・経験の少ない教員の学級経営力を高めるために、クラスづくり研修等を実施し、教員の資質の向上を図る。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」の項目教職員肯定率 40%（平成 27 年度 34.8%）</p> <p>(2) ア・中退者数昨年度比 20% 減（平成 27 年度 15 名） ・教育相談に関する生徒肯定率 60%。（平成 27 年度 53.3%）</p> <p>イ・学校教育自己診断「校内研修は、教育実践に役立つような内容となっている。」の項目教職員肯定率 50%（平成 27 年度 43.5%）</p>	<p>(1) ア・首席の任務に各年次間の調整と各分掌間の調整を加え、首席連絡会で報告した。教職員の肯定率は 15.2% 上昇し、50.0% と目標を大いに上回った。さらに、上昇させる必要がある。（◎）</p> <p>(2) ア・SC の来校日に合わせ委員会を定例化した。中退者数は 6 名。昨年度比 60% 減（◎） ・今年度から、教育相談だよりを発行し生徒への啓発を行った。教育相談の生徒肯定率は 65.9% に増加した。（◎）</p> <p>イ・授業改善プロジェクトチームによる研修等、現状に応じた研修を行った。校内研修の教職員の肯定率は 15.1% 上昇し 58.6% と目標を大いに上まらした。さらに計画的に実施する必要がある。（◎）</p>